



IAT EXA

2017年12月17日 第2回IAT研究会主催 講演会開催報告

2017年12月17日（日）、昭和大学16号館（東京都品川区旗の台）において、第2回IAT研究会主催 講演会「咬合崩壊症例とインプラント 咬合挙上の臨床」が開催されました。約70名の先生方にご参加いただきました。

講師



五十嵐 順正 先生

前東京医科歯科大学大学院教授
(摂食機能構築学分野)
大阪歯科大学客員教授
東北大学大学院歯学研究科非常勤講師



谷口 善成 先生

医療法人社団 善歯会 理事長
公益社団法人 日本口腔インプラント学会
ドイツ口腔インプラント学会 (DGZI)
EAO(European association of osseointegration)



宮崎 隆 先生

昭和大学副学長・歯学部長
昭和大学教授(歯科保存学講座歯理工学部門)
一般社団法人 日本歯学系学会協議会
理事長
公益社団法人 日本口腔インプラント学会
理事

講演会では、まず前東京医科歯科大学大学院教授（摂食機能構築学分野）の五十嵐 順正先生より咬合崩壊患者の症例を示しながら、その成り立ち、検査・診断、治療の進め方についてご講演いただきました。また、午後に入り、咬合崩壊症例への介入といたしましてインプラント・クラウンブリッジ・コーヌスクローネについてもお話いただき、咬合崩壊患者の治療についてのご講演をいただきました。



五十嵐先生 講演風景



谷口先生 講演風景



宮崎先生 講演風景

お二人目には、医療法人社団善歯会理事長の谷口 善成先生にIATインプラントを用いた咬合再建症例の臨床的検討と題し、ご講演をいただきました。講義の中では実際の症例をご提示いただき、先生の症例対応についてのご経験も交えながらわかりやすく解説いただきました。

最後に、昭和大学副学長、歯学部長であり、IATインプラントシステム開発者でいらっしゃいます宮崎 隆先生よりIATインプラントシステムED Surfaceの有用性についてご講演をいただきました。IATインプラントの表面性状に採用されているED Surfaceは、ワイヤ放電加工という、純チタンワイヤ電極による放電加工法で、形状そのものの加工とともに施された表面性状をいいます。顎骨内埋入後は、タンパク質や細胞が集積しやすく、新生骨の再生に有利に働く表面性状であり、これを図式でわかりやすくご説明いただきました。



質疑応答

先生方への質疑応答も時間が足りなくなるほどのたくさんの質問が寄せられました。講演会を通して、咬合挙上の臨床のみならずIATインプラントについて皆様にご認識していただけた一日でした。講師の皆様、ご参加いただいた皆様、お忙しい中ありがとうございました。



企業展示エリア